



2019-20 年度テーマ

第 2670 地区

宿毛ロータリークラブ会報



■会長	小栗 学
■幹事	保田 孝司
■S A A	吉尾 航
■クラブ奉仕委員長	高瀬 一也
■職業奉仕委員長	東 豊喜
■社会奉仕委員長	西田 教世
■国際奉仕委員長	岡崎 利久
■青少年奉仕委員長	竹葉 良仁

■例会日	: 毎週木曜日 12:30~13:30
■例会場	: 宿毛市幸町 秋沢ホテル
■事務所	: 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43
	: TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417
	: URL http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/
	: E-Mail sukumorc@mb.gallery.ne.jp

例会報告 第2671回 令和元年9月19日(木曜日) 天気:晴

- 例会司会: 吉尾 S A A
- 開会点鐘: 小栗会長
- Rソング: 四つのテスト
- お客様:

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 小栗会長

9/28に高知で米山協議会があります。会長幹事米山委員長副委員長も出席出来なくて困っていたところ、西田会員が代わりに出席してくれることになりました。10/6鶴来島3クラブ親睦会にも是非1人でも多くの参加をお願い致します。10/29中村プリンスで3クラブ合同例会があります。こちらも1人でも多くの参加をお願い致します。11月に徳島で地区大会があります。明日締め切りになっておりますが、1人でも多くの参加をして頂きたいと思っております。

■幹事報告 保田幹事

■四万十ロータリークラブより:

- ・例会休会のお知らせ

■米山記念奨学会より:

- ・ハイライトよねやま

欠席届 9名

■プログラム 池会員

会員卓話

西田会員

皆さんご存知でしょうか?理化学研究所のスーパーコンピュータ京、あれが8月で8年間に渡る活動が終わるそうです。後継機として富岳が2021年頃から運用が始まるそうです。スーパーコンピュータは明確な定義は無いようですが、その時代の一般的なコンピュータでは解くことが困難な大規模な計算を高速処理するのがスーパーコンピュータだそうです。京の歩みは開発段階から紆余曲折が続いて、当時のスーパーコンピュータの主要部を多数繋げて世界一の計算速度を目指したそうですが、2009年民主党の蓮舫議員が事業仕分けで『世界一になる理由は何があるのでしょうか?』と『2位ではダメなんですか?』と言う言葉が有名だと思います。指摘を受け予算が凍結になり京が色々問題がありました。単純な計算速度は国内外の新機種に抜かれ今年の6月には20位になったそうです。それではダメだと言う事で後継の富岳は更に柔軟性を持たせるようにしたそうです。宮野という東京大学の教授が代表者となり、富岳を活用して個々の患者に適した医療や予防医療を進めていくようです。例えば癌の患者さんの組織にゲノム、遺伝情報があるのですがそれを調べるのに京よりはるかに膨大な計算が出来、色んな癌患者さんの治療に役立つそうです。遺伝子の変異も見つけられるそうです。

筒井会員

若山牧水は宮崎県出身で早稲田英文科を卒業、明治18年の生まれだそうです。歌人で短歌は約七千首あって、そのうちで酒に関するものが二百余

り、自作の約3%が酒を主題にしています。宮崎県にある記念碑には次の事が書かれています。《生来、旅ト酒ト寂シ自ラ三癖ト称セシガ命迫ルヤ静カニ酒ヲ含ミツツ四十四才ノ生涯ヲ閉ジタリ》言い伝えによりますと、朝二合昼二合晩四合でめて一升、ちょっと計算が合いませんがその間にちょびりちょびりとやっていたのではないかと。牧水の父は立造と言う方ですが、町医者でありました。よく往診に呼ばれるんですが、往診代はお酒で払ってもらうという習慣があったようで、行って患者さんを見て病状が思わしくない時には大徳利(約2.5合)一本だけ頂いて帰る、軽い時には大徳利二本飲ませてくださいと言って二本飲んで良い機嫌で診察料を貰わずに帰っていたそうです。特に重篤な場合は一滴も飲まずにそのまま、今日は失礼しますとそういうお医者さんだったようです。

そういう環境に育った牧水は

飲むなと叱り叱りながら母がつぐ 薄暗き部屋の夜の酒のいろ

お母さんの愛情でしょうか、これが子供の頃に歌った短歌です。

二十歳の頃には

ちんちろりん男ばかりの酒の夜を あれちろちろり鳴きいづるかな

こんな短歌を歌っています。

二十四歳の頃には

数知れぬ女とちぎり色白の このわかき友は酒をこのまず

本当に女癖の悪い人は酒を飲まない人が多いような風潮があったようです。たぶん今もそうではないかなという感じがします。

二十八歳で結婚、新婚の頃には

にこやかに酒煮ることが女らしき つとめかわれにさびしき夕ぐれ

新妻ですから夫の為に美味しい夕餉を作る事に頑張ったけど、その為に酒を沸騰させてしまった、全然新妻の作る酒は美味くなかったと言う事を歌っています。

独飲主義

ふくみたる酒の匂いのおのずから 独り匂えるわが心かも

こういう物をしみじみと歌っています。

三十三歳になりますと

妻子等を寝静ませつ残りいて 夜のくだちゆく煮る真白酒

こういう短歌も残しております。

こうやってお酒を続け、基本的にはだいたい三合を毎日飲んで十年経つとアルコール依存症になると、昔のお酒はあまり質が良くなかったんでそういう一応の目安がありました。三十三、四歳頃から依存状態だったようで

おいおいに酒を止むべきからだとも われなりしか飲みつつおもう

もう止めよう止めようと思っていながらそうやって飲んでいたようです。三十七歳腎不全、とうとう三十代で腎臓をやられてしまったようです。

酒やめむそれはともあれながき日の ゆうぐれごろになれば何とせん

飲みたいけど飲んだら具合が悪い。それでいながらずっと飲んでいき

酒やめてかはりになにか楽しめという 医師がつらに鼻あぐらかけり

このヤブ医者めって怒ったんでしょうか

黄泉へ旅立つ 昭和三年九月十七日四十四歳で一生を閉じる。最後までお酒を止めなかった。

酔いぬれば醒めゆくときの淋しさに 追われ追われて飲めるならじか

これは、アルコール依存症の究極の心、気持ちでしてこのアルコール依存の合間を縫って、残した7000首もの短歌、牧水先生の一生は価値あるものだとつくづく感じ入ります。人は一生の間にたいしたことはできないということも真実であろうが、短くとも価値ある一生の記録は後世の人々に感動を残してくれるものだと思います。

とても有名な牧水さんの短歌ですが

しらたまの歯にしみほとる秋の夜の 酒はしづかに飲むべかりけり

これ、お猪口で日本酒で一杯やるとなんとも言えないですね。いい歌ですね。これを酒を飲みながら秋の夜に一人で飲むときはこの歌を詠むんですが、あと二つ程自分の気持ちを綴ってみました。

この浮世 絶えてお酒の なかりせば 夜長をいかに 過ごすべからん

咲くもよし 散るもまたよし 桜花 今宵も酒と ツマミを友に

大泉というのは私のペンネームです。

つづいて芭蕉の俳句ですが、酒にちなんだ俳句を抜粋した項目がございます。そういう詠み方もあるのかなと言うことで、ちょっと話が暗くなりましたけれども、酒は百薬の長、煙草は一害あって百利無しと言うのが私は思っています。

■出席報告

57.96%